



九州大学とグラミン コミュニケーションズ (Grameen Communications)が 交流協定を締結

概 要

九州大学は、バングラディッシュのグラミン コミュニケーションズと交流協定を7月12日に締結します。今回の協定締結を受け、今後はIT技術を活用してバングラディッシュの農村部への情報供給量を増加させることによる貧困の解消と教育水準の向上を目指したプロジェクトに取り組む予定です。

■背 景

Grameen Communications は、ムハンマド・ユヌス氏が貧民を救済するために1983年に設立したグラミン銀行を母体とした Grameen グループ組織の一つで、非営利目的の団体です。代表のユヌス氏とグラミン銀行は2006年にノーベル平和賞を受賞されています。

Grameen Communications の主な事業は、ソフトウェア開発、インターネットサービス、データ入力・処理サービス、IT 技術研修などで、NEC・丸紅と共同で映像を作成・配信することで一般市民に伝染病の周知を促しています。Village Computer & Internet プロジェクトでは、IT インフラ整備と村民への教育に力を入れています。また、Tele Health センターを建設し、遠隔地域医療のためのインフラ整備にも携わっています。

2006年9月に次世代スーパースタープログラム(社会情報基盤プロジェクト)の研究者として、Ashir Ahmed 博士(当時、NTT コミュニケーションズ勤務)を九州大学に採用しました。Ashir 氏は、開発途上国の社会情報基盤の構築を本プロジェクト内で展開する構想を持っており、具体的に祖国であるバングラディッシュをその実験地として活動する提案を行いました。Ashir 氏は、2006年12月にNTT コミュニケーションズを退社し、一時帰国して Grameen グループと相互協力について協議を始め、2007年2月に Ashir 氏が九州大学の学術研究員(特任准教授)となり、3月にかけて再びバングラディッシュを訪れ、九州大学と Grameen グループとの共同プロジェクトについての交渉を行いました。その結果、Grameen グループの中の Grameen Communications との合意に達し、Grameen Communications から Ashir 准教授に対して、バングラディッシュにおける活動拠点としてのオフィスと支援サービス(電話、インターネットなど)の無償提供と Grameen Communication における研究ディレクターの称号が与えられました。Ashir 准教授は、九州大学とのテレビ会議の環境設定や農村部からのメール送信実験を行い、九州大学との共同プロジェクトの基盤を構築しました。4月末から5月にかけて、Ashir 准教授は再度バングラディッシュを訪れ、Grameen Communication と詳細な計画立案を行うとともに、駐バングラディッシュ大使をはじめ、国連、WHO などとの協力交渉を行い、九州大学と Grameen Communications の共同プロジェクトに対する協力を依頼しました。

■今後の展開

本交流協定の締結により、九州大学と Grameen グループが計画しているバングラディッシュの農村部に情報ポストを設置して、農村部への情報供給量を増加させることによる貧困の解消と教育水準の向上を目指したプロジェクトの推進に取り組んできます。特に、双方の人的・技術的交流はもとより、国連をはじめとする国際機関、外務省や JICA などの国の機関、資金のおよび技術的支援を期待している国

内外の民間企業などとの交渉が円滑に進むと考えられます。

これまで、バングラディッシュの農村の問題に取り組んできた農学系の教員をはじめ、学内の関係部局とも協力しながらバングラディッシュの発展のために協力していく計画です。

本交流協定に基づくプロジェクトを推進することは、人類の共通の課題である貧困撲滅への貢献の一助となるばかりではなく、日本の先端技術であり、本学の得意分野でもある IT 技術を開発途上国（世界の 60%の人口を占める将来の大規模市場）へ実践的に応用する取組みとなることが期待されます。

【お問い合わせ】

九州大学大学院システム情報科学研究院

教授 安浦 寛人

電話：092-802-3653

FAX：092-802-3600

Mail：yasuura@c.sce.kyushu-u.ac.jp